

## 須賀川市中心市街地活性化ネットワークを形成する地域連携型博物館

Regional Collaborative Museum that Forms Revitalization Network of Sukagawa Central Districts

安田研究室 18M50275 嶋田 康志 (SHIMADA, Yasuyuki)

1. **序** 戦後日本では、社会教育のために県、市毎に多くの地方公立博物館が設置された。2019年に国際博物館会議 (ICOM) において、ICOM 規約の新たな博物館の定義が議論されたことに代表されるように<sup>註1)</sup> 博物館は、収集・保存・調査研究・教育普及・展示という従来の機能に留まらず、地域社会と連携した文化のハブとなることが求められている。本計画の対象とする福島県須賀川市は、震災の復興期から脱し、地方再生のモデル都市として回遊推進事業等の第二期須賀川市中心市街地活性化基本計画（以下第二期基本計画）に取り組んでいる。その一方で、人口減少や市街地の空洞化等の問題が生じている。また建替が検討されている須賀川市立博物館は、老朽化や収蔵庫不足の問題に加えて、学習スペースや工房が併設されず、市民の活発な活動を促すことが容易ではない。そこで、街に点在する城跡、特撮文化や祭り、商店街等の地域資源を活用する文化活動拠点としての分散させた地域連携型博物館を提案する。地域連携型博物館によって街の魅力と回遊性を向上させることで中心市街地活性化ネットワークを形成することを目的とする。

2. **地域連携型博物館** 2000年以降、観光戦略や地域活性化の役割が求められ、博物館が整備されるようになった<sup>註2)</sup>。新建築に掲載されている2000年以降の地方公立博物館<sup>註3)</sup>を対象に分析し、地域資源の活用と地域連携の視点と関連する6つの設計要素を抽出した（図1）。

3. **須賀川市中心市街地の概要と中心市街地活性化計画**
須賀川市の中心市街地は、鎌倉時代に多城郭形式かつ山城形式の前期須賀川城（図2）、平城形式の後期須賀川城の城下町として形成された。江戸時代になると奥州街道の宿場町として栄え、文化や歴史を醸成してきた。近年、大型店舗の出店や震災の影響により、市街地の空洞化が深刻な問題となっている。中心市街地の活性化を図るため、2019年4月から第二期基本計画が進められている。第二期基本計画は、須賀川の歴史や文化の継承と新たな創造を目的とし、県道須賀川駅並木町線沿道を中心とした第一期基本計画の区域に新たに翠ヶ丘公園周辺を加えた130.8haの区域で計画されている（図3）。

## 4. プロジェクト

4-1. **全体計画** 第二期基本計画の中で重点区域として指定され、実施事業が計画されている須賀川市立博物館（表1）、翠ヶ丘公園内の城跡地、商店街地区と南部地区を対象とする（表2）。地域社会と連携した文化のネットワークを形成するため、地域資源である須賀川城跡、奥州街道の宿場町である商店街や南部地区を敷地として選定し、博物館本館と分館、地域を再発見し、市街地を活性化する回遊動線を計画する（図4、4頁目）。この回遊動線は、街の重要な拠点である tette や市役所、風流のはじめ館等の連携したネットワークを生み出す。

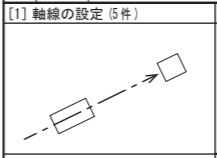
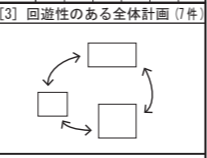
No.	掲載年	名称	観覧対象の地域資源	設計要素						
				[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	
01	2021	谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館	郷土出身者					○		
02	2020	東日本大震災・原子力災害伝承館	震災跡	○				○		
03	2018	うのすまいトモス いのちをつなぐ未来館/ 織の郷交流館 / 釜石市民体育館	震災跡、復興跡	○				○		
04	2018	福井県年輪博物館	年輪、湖	○						
05	2018	宇和米博物館 LOCA アクティベーションプロジェクト	木造校舎、米					○		
06	2018	静岡県富士山世界遺産センター	富士山						○	○
07	2017	高知城歴史博物館	高知城 城跡		○					
08	2015	宮畑遺跡史跡公園体験学習施設	縄文期集落史跡							
09	2012	鈴木大拙館	郷土出身者							○
10	2011	真壁伝承館	登録文化財			○	○			
11	2011	九州歴史資料館	集落遺跡			○	○			
12	2010	壱岐市立一支部博物館・長崎県埋蔵文化財センター	遺跡	○					○	
13	2009	世界遺産 熊野本宮館	世界遺産	○						
14	2008	星野哲郎記念館	郷土出身者				○			
15	2007	坂の上の雲ミュージアム	小説				○			
16	2007	三重県立熊野古道センター	世界遺産						○	
17	2007	鳥根県立古代出雲歴史博物館	遺跡							○
18	2006	長崎県歴史文化博物館	奉行所						○	○
19	2006	萩博物館	武家屋敷						○	○
20	2004	葛生傳承館	牧歌舞伎				○	○		
21	2004	勝山館跡ガイダンス施設	山城、史跡				○			
22	2003	石川県西田幾太郎記念哲学館	郷土出身者							
23	2003	御所野縄文博物館	遺跡							
24	2002	雲仙岳災害記念館 がまだすドーム	災害跡						○	
25	2001	大阪府立狭山池博物館	堤跡、遺構				○			
26	2000	那須歴史探訪館	宿場町、武家屋敷						○	
27	2000	沖縄県平和記念資料館	戦跡					○		
[1]	軸線の設定 (5件)		[2] 公共性の高い広場 (4件)	[3] 回遊性のある全体計画 (7件)						
										
[4]	地域ネットワーク拠点 (5件)		[5] 地域性を表象する外観 (7件)	[6] 借景要素の活用 (3件)						
										

図1. 地域連携型博物館における設計要素の抽出

4-2. **建築計画** 2章で整理した設計要素を基に、博物館本館と城跡地、市街地に建つ分館を設計する。

4-2-1. **須賀川市立博物館本館（保土原跡地）** 地域資源として、須賀川城跡に歴史的価値を見出し、保土原跡地にある須賀川市立博物館の建替を計画する（図5）。市街地形成の重心であった須賀川城を結ぶ軸線に沿うように博物館の外形を決定し、観覧空間の中で借景として市街地への軸線を切り取ることで来館者に市街地の歴史を想起させる。保土原跡に建つ博物館本館と大手門跡と天守閣跡に建つ分館と合わせて、回遊性のある散策路を整備することで、山城の歴史を継承し、新たな景観と地域の居場所を生み出す。山城の最大の特徴である巨大な堀跡を街の歴史的価値として位置づけ、観覧空間、地域性を表象する外観として取り込み、スロープでつなぐことで公園と一体となった博物館を計画する。常設展示では、須賀川の縄文時代から明治時代の歴史を展示し、スロープ空間によって展示の歴史的階層性を表現する。また、松明あかしや桜祭りの際に連携を図る公園広場、日常的に市民の活動をサポートする工房などのワークスペースを整備し、地域と観光の拠点を生みだす。

4-2-2. **分館1（天守閣跡地）と分館2（大手門跡地）** **分館1**は、天守閣跡地に計画する（図6）。前期後期須賀川城跡の軸線を表象した展望ギャラリーを設け、街の地形と風景を借景として切り取ることで、市街地の歴史と現在を伝える。**分館2**は、大手門跡地に計画する（図7）。周囲の老人ホームや保育園、支援学校に通う地域住民と、写真家等の観光客の交流スペースとなるカフェを併設した地域の無料展示空間を設ける。

4-2-3. **分館3（商店街地区）と分館4（南部地区）** 市街地の空洞化をもたらしている空き地と駐車場を対象敷地

とし、馬町商店街地区と南部地区に観光と地域の拠点となる分館3と分館4を計画する。**分館3**は、馬町商店街に計画する（図8）。日常的に利用できる飲食・休憩スペースの不足が指摘されていること、周囲に高校や保育園があることから、路地広場、学習スペースと工房、テナント、休憩スペースを設け、若者が立ち寄れる街の拠点を計画する。また、立ち寄った人が商店街の特産品を知ることが出来るように展示コーナーを設ける。日常的な連携だけでなく、商店街で行われる月一回のRojimaや年一回で行われるあきんど祭りや七夕祭等と連携して須賀川の特徴を発信する場を計画する。**分館4**は、南部地区に計画する（図9）。南部地区は、松尾芭蕉の句碑、円谷幸吉メモリアルパークがあり、夏には、きうり天皇祭や太子堂祭りが行われる等の須賀川特有の文化と歴史が多くある。その文化を発信する場として、観光案内所、展示室、宿泊所、レンタサイクルスポットを計画する。また、周辺に住宅街と中学校や高校があり、地域住民の日常的な拠点として、学習スペース、工房、テナントを計画する。中央に設けた通り抜けられる広場は、Rojima等と連携し、お祭り広場として機能する。南部地区に新しい景観と居場所を生み出す。

5. **結** 本計画では、須賀川市中心市街地と須賀川市立博物館を対象として、中心市街地が培ってきた歴史的価値や文化的価値を引き出し、地域連携した街の拠点となるネットワークを持つ地域連携型博物館を提案し、中心市街地活性化を計画した。これは、今後更新に迫られる地方博物館の観光拠点及び地域拠点としての役割の重要性和その街のあり方の可能性を示す。

<sup>[1]</sup> 2019年9月ICOM京都大会でICOM博物館定義の改正案が審議された。採択は延期されたが、定義改正のための手続きと議論を2020年から2022年までの3年間で行うことを決定した。

<sup>[2]</sup> 平成27年度日本の博物館総合調査報告の第一章の中で杉長敬治が述べている。

<sup>[3]</sup> 地域資源の特色を活用し、地域連携を図っている博物館を地域連携型博物館と定義する。

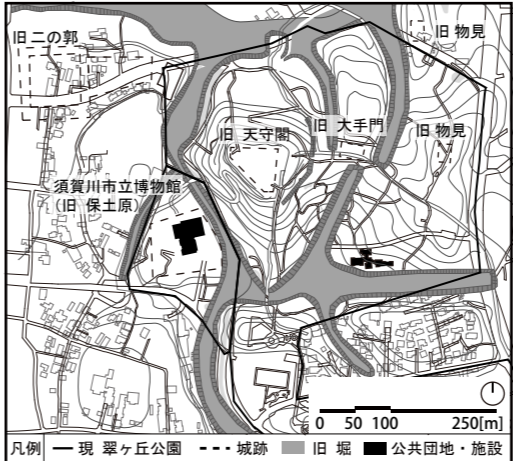
<sup>[4]</sup> 須賀川市の中心市街地で郊外の若者が主体となり、開催されている手作り市。


図2. 前期須賀川城跡の概要



図3. 須賀川市中心市街活性化エリアの概要

	表1. 須賀川市立博物館の概要	表2. 本計画の面積
概略	<div></div> <ul style="list-style-type: none"><li>市民交流センターを核とした回遊推進事業</li> <li>博物館整備基本計画策定事業</li> <li>翠ヶ丘公園内老朽化施設リノベーション事業</li> <li>商店街にぎわい事業費補助事業</li> <li>南部地区地域創進支援事業</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>須賀川市立博物館本館 <ul style="list-style-type: none"><li>建築面積：3571㎡</li> <li>延べ床面積：4172㎡</li> <li>導入部門：712㎡</li> <li>展示部門：977㎡</li> <li>教育部門：336㎡</li> <li>収蔵部門：520㎡</li> <li>研究部門：337㎡</li> <li>管理部門：242㎡</li> <li>設備部門：476㎡</li> <li>その他：572㎡</li></ul></li> <li>分館1(天守閣跡地) <ul style="list-style-type: none"><li>建築面積：117㎡</li> <li>延べ床面積：117㎡</li></ul></li> <li>分館2(大手門跡地) <ul style="list-style-type: none"><li>建築面積：174㎡</li> <li>延べ床面積：174㎡</li></ul></li> <li>分館3(商店街) <ul style="list-style-type: none"><li>建築面積：457㎡</li> <li>延べ床面積：391㎡</li></ul></li> <li>分館4(市街地南部地区) <ul style="list-style-type: none"><li>建築面積：498㎡</li> <li>延べ床面積：628㎡</li></ul></li></ul>
	所要室面積	<ul style="list-style-type: none"><li>竣工：1970年</li> <li>用途地域：第一種住居専用地域</li> <li>建築率：60%</li> <li>容積率：200%</li> <li>敷地面積：6385㎡</li> <li>建築面積：1234㎡</li> <li>延べ床面積：1481㎡</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>導入部門：158㎡</li> <li>展示部門：629㎡</li> <li>教育部門：0㎡</li> <li>収蔵部門：266㎡</li> <li>研究部門：198㎡</li> <li>管理部門：80㎡</li> <li>設備部門：47㎡</li> <li>その他：103㎡</li></ul>



### 須賀川市立博物館本館 (保土原跡地) 城跡に歴史的価値を見出し、城跡が持ってきた堀、軸線を表象し地域の拠点を生み出す博物館

対象とする地域資源  
須賀川城跡・景勝地・祭り  
(さくら祭り・松明あかし)

- 1] 軸線の設定
- 2] 公共性の高い広場
- 3] 回遊性のある全体計画
- 4] 地域ネットワーク拠点
- 5] 地域性を表象する外観
- 6] 借景要素の活用

前期須賀川城跡の最大の特徴である巨大な堀に歴史的価値を見出し、堀を観覧空間と外観に取り込み新たな景観と地域の居場所を生み出す。翠ヶ丘公園の Park-PFI 事業と連携して公園と一体化した博物館を計画する。

後期須賀川城跡・tette

須賀川市立博物館本館 (保土原跡地)

分館1 (天守閣跡地)

城跡の軸線を切り取るエントランスホールが観光・地域拠点となる。

当時の前期須賀川城跡の遺構を再整備し、分館1 (天守閣跡地) と分館2 (大手門跡地) と合わせて、翠ヶ丘公園に回遊動線を生み出す散策路を計画する。

スロープを用いることで堀を観覧空間と外観に取り込み、公園と一体化して計画する。

水堀りと空堀りを表象し、新たな風景を生み出すランドスケープと外観

市街地を形成してきた前期後期須賀川城跡の軸線に沿うように外形を配置し、歴史を想起させる

公園と一体化した博物館を生むスロープによる広場と屋外展示

1. エントランスホール 2. 学習スペース 3. 講座室 4. 企画展示室 5. 収蔵庫 6. 収蔵庫前室 7. 展覧室 8. 特別室 9. 会議室 10. 補修作業室 11. エントランスホール 12. 機械室 13. ホワイエ 14. 屋上公園 15. 屋外公園・展示

1階平面図 1:3000 A-A' 断面パース 1:1000

図5. 須賀川市立博物館本館の提案

### 分館1 前期後期須賀川城跡の軸線を表象する展望ギャラリー (天守閣跡地)

対象とする地域資源  
須賀川城跡・景勝地

- 1] 軸線の設定
- 3] 回遊性のある全体計画
- 6] 借景要素の活用

前期と後期須賀川城跡を結んだ軸線を表象する展望ギャラリー。現在の市街地の中心的な役割を持つ市役所、tette、須賀川市立博物館が軸線上で一貫できる。翠ヶ丘公園と市街地中心部を結び、市街地全体に回遊動線を生み出す起点となる。

### 中心市街地活性化ネットワーク

須賀川市立博物館本館

分館1 天守閣跡地

分館2 大手門跡地

分館3 商店街地区

分館4 南地区

0 100 200 500[m]

図4. 中心市街地活性化ネットワークを形成する博物館と分館、地域資源

### 分館4 観光案内所の機能を持つ地域交流館と祭り広場 (商店街地区)

対象とする地域資源  
須賀川城跡・景勝地

- 1] 公共性の高い広場
- 3] 回遊性のある全体計画
- 4] 地域ネットワーク拠点
- 5] 地域性を表象する外観

きうり天王祭や太子堂祭り、Rojima に合わせて街に賑わいと拠点を作る地域交流館と祭り広場

図9. 分館4 地域交流館と祭り広場の提案

### 分館2 カフェを併設する小さな資料館 (大手門跡地)

対象とする地域資源  
須賀川城跡・景勝地

- 3] 回遊性のある全体計画
- 5] 地域性を表象する外観

城跡地の入り口を再整備した回遊動線を生み出す小さな資料館

須賀川の風景や骨董品を展示し、周辺の地域住民やカメラマン等の観光客に街の歴史と魅力を発信する場となる。

図7. 分館2 カフェを併設する小さな資料館の提案

### 分館3 商店街の取組みと連携する地域交流館 (商店街地区)

対象とする地域資源  
須賀川城跡・景勝地

- 1] 公共性の高い広場
- 3] 回遊性のある全体計画
- 4] 地域ネットワーク拠点
- 5] 地域性を表象する外観

商店街の道に対して、路地広場を設けることで、不足が指摘されている飲食・休憩スペースを作りだす。また、Rojima や七塔祭りに合わせて、仮設店舗が展開できる場を確保し、地域と観光の拠点を計画する。

1. 工房 2. 工房 3. ショップキッチン 4. 半屋外展示室 5. テナント

1. 路地広場 2. 半屋外展示室 3. ギャラリー

B-B' 断面パース 1:500

1階平面図 1:1500

商店街の特産品を展示し、須賀川の産業を発信する

図8. 分館3 地域交流館と博物館分館の提案

1. 観光案内所 2. 宿泊所 3. 祭り広場

C-C' 断面パース 1:500

1. 展示 2. 観光案内所 3. 工房 4. テナント 5. 学習スペース 6. 祭り広場 7. 駐車場

1階平面図 1:1500

図9. 分館4 地域交流館と祭り広場の提案